

野生動物の事故 アプリで投稿

位置など記録、対策に活用



写真を投稿する際のアプリの画面を見せる浅利さん（北海道帯広市）

北海道の大学講師が実験

各地で後を絶たない野生動物の交通事故被害（ロードキル）について、スマートフォンを使い全国の発生状況を把握する実験を、帯広畜産大（北海道帯広市）の特任講師、浅利裕伸さん（43）が始めた。目撃した人に事故に遭った動物の写真をアプリに投稿してもらい、位置情報などの記録を蓄積して事故対策に役立てたい考えだ。

道内では2019年1年間でエンシカの交通事故被害が3千件を超えたほか、沖縄県ではヤンバルクイナやイリオモテヤマネコといった希少な動物の被害が報告されている。

事故が多いとされるタヌキなども含めた野生動物全体の統計はなく、浅利さんは「いったい事故がどれだけ起きているのか。運転する人の安全確保」も目的の一つ。

動物の種類などを人工知能（AI）が自動で識別し、データベースに蓄積する。アプリは同ホームページで無料でダウンロードできる。

実験では動物の種類や出没しやすい地点などのデータを、事故対策などに関わる行政機関や研究者らに提供するほか、一般向けにも公開する。浅利さんは「データが集まれば、どこを重点的に対策すべきかなど分かることも多いはず。できるだけたくさんの人に呼びかけている。実験期間は21年8月末まで。」

2020.10.22(火)日経9